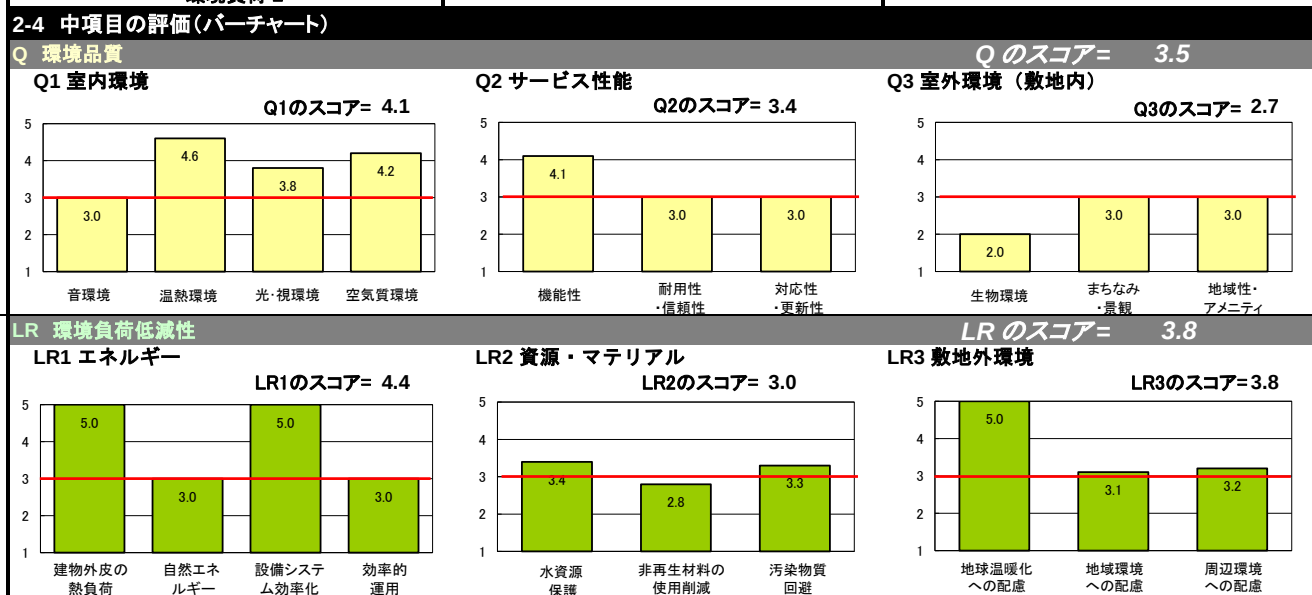
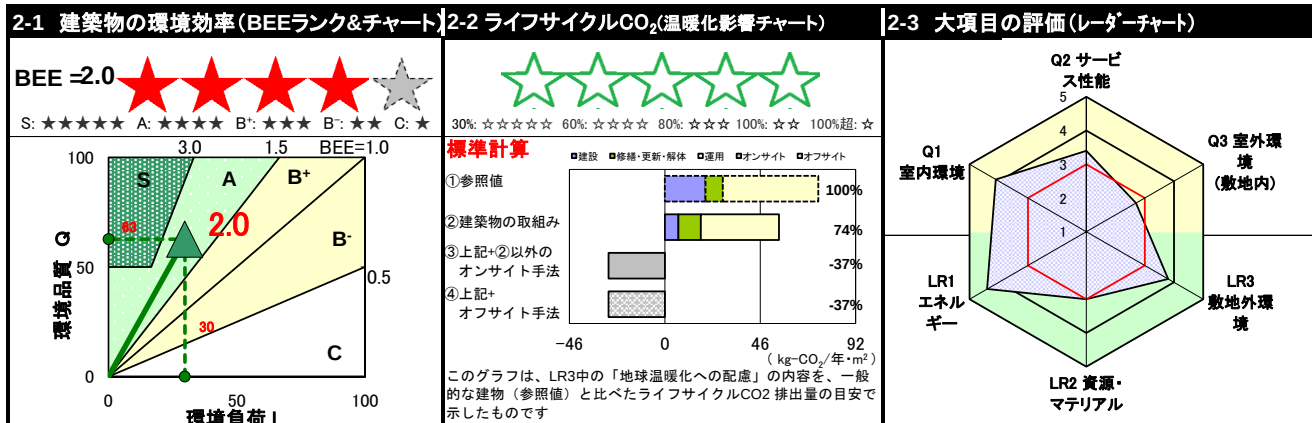


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)瑞穂区弥富通計画	階数	地上15F
建設地	名古屋市瑞穂区弥富通4丁目10番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域/第二種中高層住居地域	平均居住人員	177 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年5月30日
敷地面積	897 m ²	作成者	
建築面積	404 m ²	確認日	2025年6月3日
延床面積	3,069 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画地は、大通り沿いに面した市街地にあり、狭小敷地に効率的に住棟を配置するとともに、敷地内の緑化に努め、遮熱環境の緩和と共に潤いのある住宅環境となるように配慮した。		
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 南側には開口部を大きく確保するとともに、空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級とし、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来るように努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 南側道沿いに緑地を設け遮熱環境の緩和に努め、南東側にはシンボルツリーを配置し、生活環境に潤いを与えるよう努めた。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性能5等級の断熱仕様、一次エネルギー消費量6等級を確保するとともに、エコジョーズ給湯器の採用等により、環境負荷の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型設備機器の導入や部材の再利用可能性の向上に努めた。また、有害物質を含む材料の不使用により、環境への配慮に努めた。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物隔離距離をとることにより、日照・プライバシー等への配慮を行った。また、南側道路境界に地被混植を施すことで環境悪化の低減を目指した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)瑞穂区弥富通計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	5.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ 3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。